



安心なパズルの提案！

さとうきび畑からの発想

0 1 D 3 1 1 梅里 季雅子



ターゲット

■ 高齢者や障害のある方

<理由>パズルは遊びながら頭も鍛えられ、子供の発育にはとてもよい。そのパズルを、高齢者や障害のある方が遊びながら、ぼけ防止やリハビリに役立つような安心なパズルがあればよいと思い考えた。



リハビリ訓練



クラブ活動（生け花）

パズルって何？

- ジグソーパズルは 230年以上前にイギリスで生まれ、その後、世界中で遊ばれ続けています。当時は、糸ノコ(ジグソーといひます)を使って木の板をバラバラに切つてパズルを作つたため「ジグソーパズル」と呼ばれるようになりました。
- 今では立体の物やいろいろな素材のものが出ています。

いろいろな パズル



生活調査

口答で20人に聞きました。



- パズルはいつ頃遊んでいたか。

3歳ぐらいから小学生ぐらいまで

- 年齢によって大きさや形に違いはあるか。

年齢が上がるにつれてピースが小さくなり数も増える。

- 高齢者や障害のある方は、実際にパズルを使っているのか？

ケアセンターや老人ホームにいくつか伺った

ところでは、使っていないしそういう商品も

ない。

調べてみて

- 市場では、主に子供用のものと、大人でも趣味で楽しめるものの二種類が主流になっている。
- 素材は主に厚紙が多く、木材や金属はとても少ない。
- 平面的な物ばかりではなく、立体的な物も増えている。



コンセプト

< 素材 >

- ✧ バガスモールは、天然素材のみを使っているなので舐めたり口に入れたりしても安心！！
- ✧ また独特な触り心地が手から五感に働きかける！



売り方

- 老人ホームやケアセンター、盲学校などで使ってもらえるよう売り込む。
- 価格は安さを求めるのではなくそれなりに。（3000円～5000円）
- レンタルすることもでき、この商品をなるべく多くの人に知ってもらおう。
- インターネットでも販売して自宅にいながら誰でも手に入れられる！

デザインのポイント

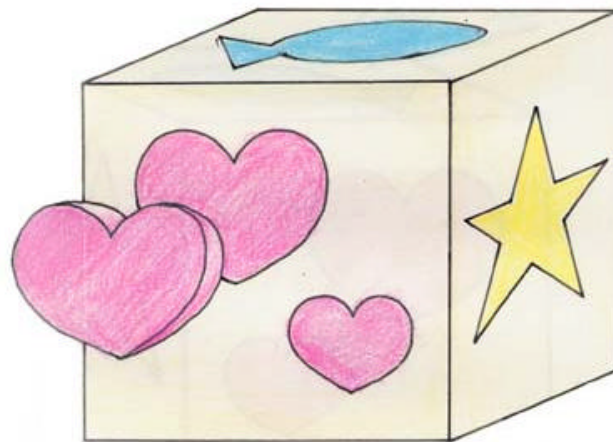
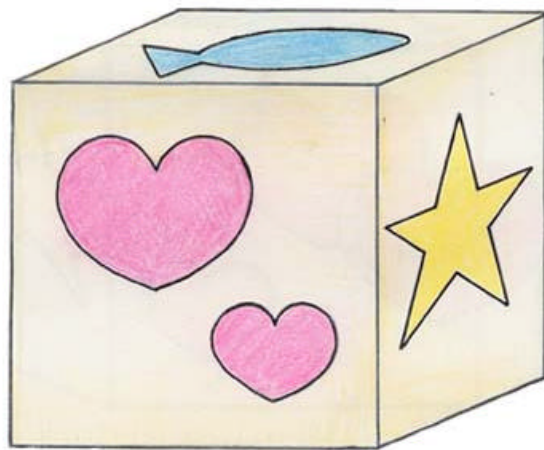
デザインは去年の夏やらせていただいたケアセンターでの介護体験やボランティア活動をしている友達、地域の小学校に併設しているケアセンターの職員も方に意見を伺いました。

- 障害が重度の方は普通のパズルはとても無理。
- 手で持ちにくいような物もさけた方がいい。
- パーツが小さすぎると飲み込んだりする可能性があり危険！

重度障害の方用パズル

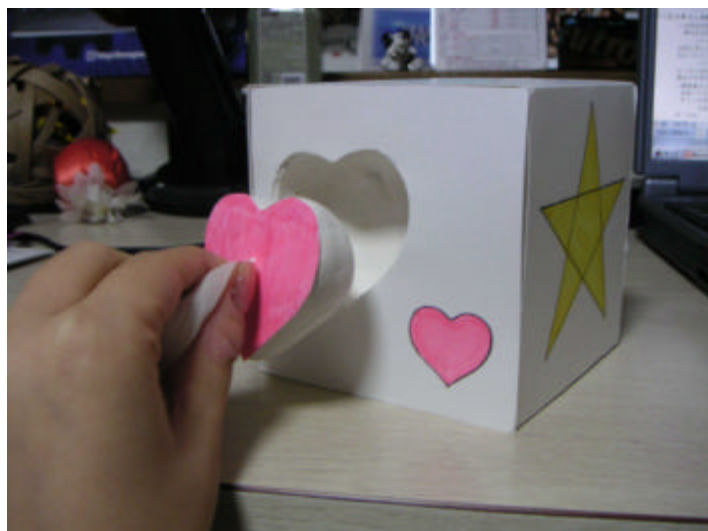
< デザイン案 >

- パーツをわかりやすい形にしてはめ込むような形式にする。



モデル

- 取り出しやすいようにリボンなどでもち手を付ける。
- モデルではできなかったが安全のため立方体の角はとる。



デザインの問題点と対策

■ はめ込む制度はどうしたら得られるか？

パーツとはめ込む部分は別に作って立方体に埋め込むようにして造る。
パーツも立体なのでピッタリ合わなくてもある程度は大丈夫だと思う。

■ 障害者の人にもう少し興味を持ってもらえるようなデザインの方がいいのでは？

大きさをもう少し大きくする。

興味を持ってもらえるように注文を受け付けてお孫さんの写真などをプリントしたりできるようにする。

■ 立方体は実現可能なのか？

乾燥が難しいかと思うので中に何か違うものを入れたり、木材を組み合わせるように何層かにしていくなどの工夫をする必要があるかもしれません。

パズルの特徴



- パズルを楽しむだけでなく、さらに好きな色を付けることができる。
- 右下のようなセットを付けるか別売りにしたい。
- もちろん絵の具も舐めたりしても安全な植物性のものを！
- 色を自分で付けることにより、オリジナリティがでてより愛着がわくと考える。

バガスの材料特性

- すぐれた成型性：立体物を量産する場合の製法は「**モールド成型**」であることに注意
- バージンパルプなので食品を直に入れることができる
- 生分解性：地中で3ヶ月で分解する
- 安全性：燃やしても有毒物が出ない
- 通気性
- 難燃性：電子レンジやオーブン料理も可
- 耐低温性：冷凍OK
- 着色・エンボス加工・シール添付可
- 繊維が長く丈夫である
- 農業廃棄物を利用したエコロジカルな素材である